

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

美術科

| | | |
|-----|-------------------------------|---|
| I | 研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| II | 趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| III | 実践発表校一覧と指導者氏名・・・・・・・・ | 1 |
| IV | 実践発表と協議内容・・・・・・・・ | 1 |
| V | 本年度の反省と来年度の方向・・・・・・・・ | 4 |
| VI | あとがき・・・・・・・・ | 5 |

I 研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ表現と鑑賞の学習の在り方

II 趣旨

生徒が自ら学び、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力を養いながら、感性を豊かにしていくための、付ける力を明確にした指導を中心に据えた表現および鑑賞の授業の在り方を、生徒の姿で明らかにしたい。

III 実践発表校一覧、指導者名

第1分科会 指導者 上條 雪絵 先生（長野県教育委員会教学指導課指導主事）
世話役 千原 厚 先生（信州大学教育学部附属長野中学校）
第2分科会 指導者 志摩 宏道 先生（長野県総合教育センター専門主事）
世話役 北沢 康孝 先生（信州大学教育学部附属松本中学校）

【第1分科会】

| 発表順 | 地区 | 番号 | 校名 | 実践発表内容 |
|-------------------|-------|----|-------|--|
| 1 | 下伊那 | 20 | 竜東中 | 友のよさを発見し、生かしながら「できた」実感のもてる授業の在り方 : 1年 |
| 2 | 更埴 | 3 | 埴生中 | ものの見方や感じ方を深めるための学び合いの具体的な手立てについて : 1年 |
| 3 | 長野上水内 | 32 | 附属長野中 | 機能のよさと美しさを併せもち、主題に合うこれまでに考えなかった新たな表現の仕方を考え出す力を高める指導の在り方 : 2年 |
| 実践発表者3名、その他4名 計7名 | | | | |

【第2分科会】

| 発表順 | 地区 | 番号 | 校名 | 実践発表内容 |
|-------------------|----|----|-------|---|
| 1 | 佐久 | 8 | 浅間中 | 生徒が主体的に主題を練ることができる題材やシンキングツールについて : 1年 |
| 2 | 塩尻 | 1 | 両小野中 | 主題を実現するために、学ぶ楽しさを実感できる表現と鑑賞の在り方 : 3年 |
| 3 | 松本 | 25 | 附属松本中 | 鑑賞活動をいかし、願いに沿った形や色を用いて主体的に表現していく美術科の学習の在り方 : 3年 |
| 実践発表者3名、その他6名 計9名 | | | | |

IV 実践発表と協議内容

【第1分科会記録】

【第1分科会】

1 竜東中学校 穂刈みずき先生の実践発表

「友のよさを発見し、生かしながら「できた」実感のもてる授業の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・主題が表れるよう、自分の上履を構図と色を考えて描く題材。生徒が描けることを実感できるよう、以下の手立てを考えた。

①上履の気持ちを想像することから始める題材導入の工夫

②円や楕円を使って主題が表れる位置関係を見つけ出す構想を練る段階の工夫

③明度の高い色から着彩するなどの着彩の手順の提示

④重色の効果と明度の差を生かす配色の仕方の実演

- ・上履のイメージがあり、これが自分の表したい思いに合った色をつくり出すことの支障にならないか。
- ・学ばせたいことを絞ったほうがよいと考える。画面構成のポイントを学ばせたいのか、着彩の仕方を学ばせたいのか、配色のためのポイントを学ばせたいのかなどの学習のねらいを明確にして、学期や学年に分けて指導計画をつくってもよいと考える。

(2) 指導者からのご指導

- ・題材名がよい。中学に入学したばかりの生徒が、新しい上履を通して「自分」と「学校」とのこれからの関係性を見つめる題材。上履に自己を投影させることで主題を設定しやすくするとともに、描きながら中学校生活への夢がもてる題材となっている。
- ・創造的な技能を身に付けるとは、教師が技術を伝達するのとは違い、児童生徒が、自分が表したいことを表すために自分のとっておきの方法を生み出していくことと理解したい。
- ・「主体的」、「対話的」、「深い学び」は段階的なものではない。また、あくまで資質や能力を付けるための授業改善の視点であって、ねらいや付ける力そのものではないので、新学習指導要領を読んで、皆で理解を深めたい。

2 埴生中学校 北村亜矢子先生の実践発表

「ものの見方や感じ方を深めるための学び合いの具体的な手立てについて」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・互いの作品を見合って思ったことを活発に語り合う中で、互いの表現のよさを知り、自分の表現を高める生徒の姿を願い、次の手立てを考えた。
 - ①相互鑑賞の時間を授業中に位置付け、互いの作品を見合い、作品を見て感じたことを語り合ったり教え合ったりすることを習慣化する。
 - ②相互鑑賞が習慣化できるようにするために、1時間の授業の流れを定め、必ず位置付けるようにする。
 - ③「相手の心を傷つける言葉を言わない」、「よいところを伝える」、「クラス全員の作品を見る」という3つの相互鑑賞のルールを定め、生徒に周知徹底する。
- ・決められたことを行える生徒なので、鑑賞の観点を伝えてから鑑賞させると、学習のねらいに合った鑑賞を行うのではないか。

(2) 指導者からのご指導

- ・生徒指導、特別支援の視点で生徒を観て授業づくりを進める点や、美術を通した人間形成を目指している点が参考になる。
- ・鑑賞を毎時間の授業に位置付ける試みが参考になる。毎時間設定することで形だけの時間になったり、鑑賞学習の型をつくったりしてしまわないよう、ねらいに応じた場づくりや方法を考える方向で、今後研究を進めていかれるといい。多様な鑑賞活動があつてよく、生徒の姿と付けたい力から鑑賞学習の場をつくり出したい。
- ・鑑賞の際に生徒に掛ける教師の言葉を工夫することにより、鑑賞の視点をもつことができる。
- ・「コミュニケーションのよさを感じる」という目標は、他教科や他教育活動でも養える力。美術の授業で付ける力は何かを明確にし、その力を付ける。

3 信州大学教育学部附属長野中学校 千原厚先生の実践発表

「機能のよさと美しさを併せもち、主題に合うこれまでに考えなかった新たな表現の仕方を考え出す力を高める指導の在り方について」

(1) 発表されたこと

- ・これまでに考えなかった新たな表現の仕方を考え出す力を高めるための手立てとして、共同学習を位置付ける。
- ・グループ全員が学習に主体的に取り組むための学習の仕方や学習道具の工夫
- ・生活空間に働きかける表現としてプロジェクションマッピングを提案

(2) 指導者からのご指導

- ・共同制作は、個々の児童生徒がそれぞれ十分に活動できるようにすることや評価の難しさなどから、実施のしにくさを感じるところ。本研究では、生徒が自分の学びを実感できるよう、また共同制作の中で一人一人が学びから外れてしまわないようにするために、個の発想から始まる題材展開や、グループの人数構成などに工夫がされている。
- ・アイデアを練り上げていくための話し合い活動をしやすくするために、アイデアが見えるようにするツールが、大変参考になる。
- ・目の前にいる生徒の興味・関心に応じた題材を開発する研究と併せ、授業をしてみてもうまいかなかったところを見直し、改善している。日々の授業改善の力を感じる研究として手本としたい。

文責 信州大学教育学部附属長野中学校 千原 厚

【第2分科会記録】

【第2分科会】

1 浅間中学校 赤羽雄太先生の実践発表

「生徒が主体的に主題を練ることが出来る題材やシンキングツールについて」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・発想・構想の段階で教師側から生徒にコースをつくらないことや、更には従来使われていたイメージマップよりも単元全体の時間短縮ができることなど、シンキングツールの有効性の提案でした。
- ・レポートでは、具体的な生徒の姿や、シンキングツールを使用した授業場面の写真が盛り込まれ、これまであまり耳にしなかったシンキングツールという支援方法を身近に感じることができました。

(2) 指導者からのご指導

- ・プログラミング教育に関わって、タブレット端末を用いた鑑賞授業の方法や、PCを使って簡単に色を変更していった生徒の発想をより確かなものにする方法を紹介していただきました。
- ・学習指導要領に関わって、1学年と2・3学年におけるつけたい力について、1年生は対象をじっくりと見て、感じたことをもとに対象を表すこと、2・3年生は心象面を表現すること、等を分かりやすくご指導していただきました。

2 両小野中学校 高野菊丸先生の実践発表

「主題を表現するために、学ぶ楽しさを実感できる表現と鑑賞の在り方」

(1) グループ内で話し合われたこと

- ・マインドマップを用いる学習カードでは、人の顔の形に書き込むという手立てを入れたことが面白いという話題が上がりました。粘土でモデリングをしてから石膏を牛乳パックで固め、削っていくとう実践内容でした。

- ・カービングに抵抗を感じる生徒には、型をとって型どりしていけば生徒の抵抗感を更になくせるのではないかというご意見や、石膏という素材なら牛乳パックの形にとらわれず、付け足すことをすれば同じ石膏を使っても表現の方法が更に幅をもってくるというご意見が出ました。

(2) 指導者からのご指導

- ・粘土はくっつけるが、石膏は削り落とすというところに大きな違いがあるということ、主題は題材の流れの中で決まってくるがあっても良いということ、特に大事なことは生徒が自分でやってみて楽しかったという感情をもつことであるというご指導をいただきました。
- ・題材は、まず教師がその題材にのめりこんでいることが大事だということをご指導いただきました。

3 信州大学教育学部附属松本中学校 北沢康孝の実践発表

「鑑賞活動をいかし、願いに沿った形や色を用いて、美しく主体的に表現していく美術科の学習」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・自分を表現することに苦手意識をもつ生徒に対し、感情や人柄も表現しているということに気づく活動を入れたり、中間鑑賞会の場面を設定したりすることで、生徒が主体的に自分を表現していく実践を発表した。
- ・立体感を表現することと、自分自身の内面を表現することは果たしてつながることなのかというご意見や、なぜ顔を描くのかというご質問から、題材設定の理由を明確にもつことの重要性を共有することができました。

(2) 指導者からのご指導

- ・技能を獲得することだけを目的にしないようにし、生徒の表したい思いに合わせて授業を展開することを大事にしたいというご指導をいただきました。
- ・自画像は絵を描きながら自分と向き合っている、だからこそ、大事にしたい題材であり、この題材をやるのなら、教師の工夫を入れてほしいというご指導をいただきました。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 北沢 康孝

V 本年度の反省と来年度の方向

| 項目 | 内容 |
|--------------------------|---|
| ○研究テーマについて | ○全体テーマを、新しい学習指導要領に即したテーマにしていく方向を考えたい。 ・「生きる力」も大切な力であるが、新しい学習指導要領が示す資質。能力の育成へもう少し角度付けたテーマに変える。 ○第2分科会のテーマには、「新題材」は継続する。 |
| ○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について | ○どのような題材であれ、「発想・構想の能力を引き出し高める」、「創造的な技能を引き出し伸ばす」「見て感じて、見方や考え方を広げる」ための指導の在り方が課題になっていることが自覚できた。 →このことから、来年度も、題材に寄り過ぎることなく、資質・能力の育成に焦点を当てた研究になるようにする。 ○中学校での授業内容しか考えられていない傾向が強い。生徒は小学校の学びの上に中学校の学びがあり、高校へ繋がっていくことを考えると、小・中・高の学習を視野に入れた題材や題材展開を考える必要性を感じることができた。 |

| | |
|---|---|
| | <p>→このことから、小学校や高校の先生の参加も増やしていきたい。</p> <p>○一時間の授業づくりに終始している傾向が強い。題材全体や題材展開を考える必要性を学ぶことができた。</p> <p>○会のスタンスを「教えたい」から「伝えたい」へ変える方向性も模索。経験年数の多い先生から若い先生への「伝えたい」を充実させたい。</p> |
| ○研究会当日の運営について（希望者による実践発表、分科会やワークショップの在り方 等） | <p>○午前は実践発表、午後はワークショップという運営でよい。</p> <p>○気軽に参加でき、かつ、学びが多い1日になった。</p> <p>○気軽に参加でき、かつ、参加者同士がうちとけ、会話ができ、その上で「明日の授業に生かせそうだ」と思える収穫があるような内容にする。</p> <p>→これらのことから、来年度も以下の4点を大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートなしでも参加できるようにすること。また、レポート発表は3名程度にする。ただ、作品を持ち寄って参加する参加者もいるので、作品紹介も実践発表に位置づける。 ・午後はワークショップを行う。ワークショップでは、単に体験するだけではなく、教材化や指導案略案づくりなど授業につながる取り組みを行う。 ・悩みを打ち明けたり、授業づくりについて考え合ったりする機会にする |
| ○研究会までの運営について（参加費、メール送付、Web ページからの申し込み 等） | <p>○当日まで参加者に丁寧に連絡をしたことがよい。</p> <p>○1月開催になったため、レポート作成に余裕がもてたという感想があった。</p> <p>○メールによる連絡が、端的で分かりやすかったという評価をいただいた。</p> |
| ○その他、運営全般にかかわって | <p>○生徒の丁寧にあいさつや対応（説明、会場までの案内、お茶の用意）に、参加者の心を温めるものがあったようである。</p> <p>○丁寧な準備や対応、急なお願いにも温かく対応したことに多くの感謝の言葉をいただいた。</p> |

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導の在り方について熱心に討議がなされ、多大なる成果を収めることができました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての確なご指導、ご助言していただきました、指導者の上條 雪絵 先生、志摩 宏道 先生、午後のワークショップでご講演いただきました蛭田直 先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践について語り、研究会を盛り上げるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、美術科教育の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 千原 厚
副委員長 北沢 康孝